

日本短角種産肉能力（直接法）検定成績

（畜試 肉牛部）

1. 背景とねらい

日本短角種の産肉能力等経済性の向上を図るため計画交配により優れた能力を備えた種雄牛を生産確保し、その効率的利用により集団的な育種改良を推進することを目的とした肉用牛集団育種推進事業が展開されている。

同事業で実施した昭和63年度直接検定成績を改良指導のための参考に供する。

2. 技術の内容

- 1) 本年度検定頭数は第1期20頭、第2期14頭の計34頭であった。検定終了後の供用頭数は33頭で供用率97.1%であった。
- 2) 検定牛の成績は、平均1日当たり増体量は第1期1.17kg、第2期1.24kgであった。
- 3) 選抜指数値、検定成績、血統、体型等を比較検討し、間接検定実施予定牛5頭を選抜した。その名号は初秋、宝石、房錦、琴久および笹宝である。

3. 指導上の留意点

1) 直接検定方法

期 間

第1期 単房 昭和63年11月 1日～平成元年 3月21日（140日）

第2期 群房 昭和63年11月15日～平成元年 4月 4日（140日）

飼 料

濃厚飼料 産肉能力検定飼料（TDN73.0% DCP10.5% DM87.6%）

ペレットメタボリック体重当たり6.3%制限

粗飼料 乾草飽食（TDN46.9% DCP11.9% DM82.6%）

飼 養

単房 運動場に1日2時間

群飼 （4～5頭1群）ブロードベントドア使用

2) 選抜指数式

$$I = 21.749 (D G) - 0.254 \times (\text{皮下脂肪厚}) + 10$$

皮下脂肪厚：皮下脂肪厚8箇所の合計（超音波探傷機）

選抜指数式作成に用いたパラメータ

形	質	平均	標準偏差	表型・遺伝相関			遺伝率
				D	G	皮脂厚	
D	G	1.25	0.12	-	0.0		0.5
皮下脂肪厚		82.0	8.0	0.3	-		0.5

右上：遺伝相関 左下：遺伝相関

相対希望改良量 D G 0.12kg 皮脂厚 5.0mm

・ 関連試験課題名

日本短角種産肉能力検定（直接法）